

平成19年度中間評価結果（平成19年12月）

[研究開発課題名] 移動体向け超高速通信用衛星搭載ビーム形状可変マルチビームアンテナ装置の研究開発

[委託機関名] 三菱電機株式会社

項目	評価 ランク	所 見	再評価 ランク	再 所 見
総合 所見	A	<p>(技術)</p> <p>波面センサによる光波位相分布の補正、W級出力O/E変換器の実現、マルチビーム形成におけるビームごとの位相分布制御による同軸ビーム光への変換など、サブテーマ1「光信号処理回路」において現時点での目標は十分に達成されている。さらに、-20dB以下のサイドローブ抑圧について実験的に実証も行き、サブテーマ2の「指向性合成技術」についても良好な成果が得られている。</p> <p>各サブテーマの進捗状況と、十分な研究体制を鑑み、研究プロジェクト全体として最終目標の達成に向けて順調に進捗していると判断する。</p> <p>1点、研究開発によって得られた研究成果について知財確保の観点から特許申請を積極的に行うとともに、成果を広く公開するために学会等での発表を活発化することを望みたい。</p>	-	(技術)
		<p>(事業化)</p> <p>無線通信におけるデータ容量の増大化に伴い、小型化・軽量化、サービスエリアのフレキシブル化、広帯域化などが要求されている衛星搭載アンテナ装置において、従来のフェーズドアレーアンテナ装置よりも小型化・軽量化・低消費電力化・低電磁干渉性などを実現する「光搭載アンテナおよびビーム制御装置」を販売する計画である。</p> <p>受託者は当該市場において既に国内、国外程度の市場シェアを有しており、当該製品の技術的優位性が加わることで、一定の収益が期待される。</p>		(事業化)

(注) 総合所見の公表にあたっては、企業秘密等に配慮しています。